

科目名	音楽Ⅰ		選択必修修	使用教材	MOUSA（教育芸術社）
学年 学級	1 年全クラス	単位数	2	教科 担当	佐々木富美子

期 間	授 業 計 画	到達目標
1 学期 期末迄	楽典・ソルフェージュの基礎 歌唱・呼吸法・発声法の基礎 ・発声（親しみ易く、声出しに適した曲） ・混声 4 部合唱（合唱祭の課題曲） ・立川高校 校歌 ・独唱 ・2 部合唱 器楽・カップス、ボディパーカッション ・キーボードアンサンブル：コード進行、伴奏付けの学習 鑑賞・実技関連曲の鑑賞	・表現に必要な知識や技術を身に付け表現に活かすことができる。① ・歌唱では、正しい姿勢・腹式呼吸・美しい響きを得るための発声法を学び豊かに表現することができる。② ・器楽では持てる技能を活かし、曲に相応しい表現をすることができる。② ・鑑賞では知識等をもとに音楽を感受し、曲に対する評価や価値・音楽表現の固有性や共通性について考えることができる。② ・練習から積極的に授業に取り組み最終目標を限定せず表現豊かに発表に臨むことができる。③ ・豊かな音楽性や表現力を探究することができる。③
2 学期 期末迄	歌唱 ・日本歌曲・イタリア歌曲・混声 4 部合唱 器楽 ・ギター弾き語り、アンサンブル：コードの仕組み等の習得 ・ハンドベル：季節にふさわしい曲のアンサンブル演奏 鑑賞 ・ミュージカルまたはオペラの鑑賞 ・実技関連曲等の鑑賞	・表現に必要な知識や技術を身に付け表現に活かすことができる。① ・歌唱では、正しい姿勢・腹式呼吸・発音・美しい響きを得るための発声法を学び豊かに表現することができる。② ・器楽では持てる技能を活かし、曲に相応しい表現をすることができる。② ・鑑賞では知識等をもとに音楽を感受し、曲に対する評価や価値・音楽表現の固有性や共通性について考えることができる。② ・練習から積極的に授業に取り組みグループで協力し合い表現豊かにアンサンブルを楽しむことができる。③ ・他者の音楽を聴き豊かな音楽性や表現力を探究することができる。③
3 学期 期末迄	ハンドベルアンサンブル ～グループで選曲、練習、発表会～ 琴の学習 鑑賞 ・日本音楽の特徴 ・ミュージカルと舞台演劇の比較	・表現に必要な知識や技術を身に付け表現に活かすことができる。① ・持てる技能を活かし創意工夫しながら、曲に相応しい表現をすることができる。② ・ハンドベル発表課題に、積極的に協働的に参加できる。③

学習のポイント（授業中や家庭学習の方法）

- ・教科書・ノート・ファイル・楽譜・楽器等、必要な物を必ず持参すること。
- ・毎回の授業に出席し、意欲的に取り組み、提出物等をきちんと提出することが重要。
- ・グループ学習では、アンサンブルでの自分の役割を認識し、他のメンバーと協調して音楽を楽しむ自信をもって演奏する力をつける。
- ・独奏や独唱では、実技テストに臨み、練習の成果を発揮する。
（自主性、集中力をもって必要な準備練習を行う。）

ルーブリック評価					
評価の観点			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養			知識・技能	課題発見・解決力	粘り強く取り組む力
評価規準			音楽を形作っている要素を知覚し、表現に必要な基礎・基本的な知識及び技能を系統のかつ高度に身に付け、活用することができる。	音楽を感受し音楽表現の固有性や共通性について考え知識や技能を活かし、演奏に結び付けることができる。	あきらめず粘り強く取り組む大切さを理解し、豊かな音楽性や表現力を探究することができる。
A	立高生として目指すべき目標	レベル4	音楽を形作っている要素を知覚し、表現に必要な基礎・基本的な知識及び技能を系統のかつ高度に身に付け、応用することができる。	音楽を感受し音楽表現の固有性や共通性について考え知識や技能を活かし、創意工夫、他者と協同しながら演奏に結び付けることができる。	あきらめず粘り強く取り組む大切さを理解し、積極的に豊かな音楽性や表現力を探究することができる。
B	立高生として求める標準	レベル3	音楽を形作っている要素を知覚し、表現に必要な基礎・基本的な知識及び技能を系統のかつ高度に身に付け、活用することができる。	音楽を感受し音楽表現の固有性や共通性について考え知識や技能を活かし、他者とも協同し演奏に結び付けることができる。	あきらめず粘り強く取り組む大切さを理解し、豊かな音楽性や表現力を探究することができる。
		レベル2	表現に必要な基礎・基本的な知識及び技能を系統的に身に付けている。	音楽を感受し音楽表現の固有性や共通性について考え知識や技能を活かし、他者とも協同し演奏に結び付けることができる。	あきらめず粘り強く取り組む大切さを理解し、豊かな音楽性や表現力を探究しようとする。
C	立高生として初歩的段階	レベル1	表現に必要な基礎・基本的な知識及び技能を理解している。	知識や技能を活かし、演奏に結び付けようとしている。	あきらめず粘り強く取り組む大切さを理解している。
評価方法			レポート 行動観察	レポート 実技テスト	行動観察 実技発表
観点別評価			レベル1～4の4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載	レベル1～4の4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載	レベル1～4の4段階で評価し、最終的にA, B, Cで記載

科目名		美術 I		選択必修修	使用教材	美術 I（光村）
学年 学級	1 学年美術選択者	単位数	2	教科 担当	関谷美保子・池田真弓	

期 間	授 業 計 画	到達目標
1 学期	オリエンテーション ①鉛筆デッサン「卓上の静物」 ・エスキース ・デッサン ②シルクスクリーンによるプリント制作 ・アイデアスケッチ ・下絵制作 ・カットティングシート作成 ・プリント1回目 ・プリント2回目	年間を通しての授業進行、課題内容の理解。 ①・鉛筆の正しい使い方、削り方を理解し、実践する。①③ ・ネリ消しゴムの使い方と表現の工夫。①③ ・静物画において効果的な見せ方や構図を考える。② ・対象をよく観察し、陰影の様子や中の骨格、表面の質感の違いなどを表現する。 ②・生活の中で活用する道具にふさわしい、楽しいデザインを考える。② ・シルクスクリーンのカットティング技法について理解する。① ・道具類を正しく安全に使用し、版を仕上げる。①③ ・専用の絵具や道具の使い方を理解し、きれいに刷る。①②
2 学期	③油彩画「人物」 ・アイデアスケッチ ・下描き ・彩色 ・講評会 ④古典技法「日本画」 ・アイデアスケッチ ・下描き	③・モチーフや構成を考える。② ・油彩の道具の正しい使い方の理解と習得。① ・効果的な使い方、表現のバリエーションを学び、自身の制作に活かす。①② ・自身の作品の発表、振り返り。他者作品の鑑賞。今後の制作や発想に役立てる。②③ ④・モチーフや構成を考える。② ・日本画の道具の正しい使い方や手順の理解と習得。①
学期	・彩色 ・講評会	・効果的な使い方、表現のバリエーションを学び、自身の制作に活かす。①② ・自身の作品の発表、振り返り。他者作品の鑑賞。今後の制作や発想に役立てる。③

学習のポイント（授業中や家庭学習の方法）

年間を通して生活の中で資料収集などに励み、表現の幅を増やし、発想を豊かにする。
専門性の高い画材に触れ、その歴史や文化を学ぶと共に、作品を大切に作る心を育む。
進行状況や制作手順を確認しながら、計画的に作業を進める。

ルーブリック評価					
評価の観点			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養			知識・技能	課題発見・解決力 表現力	粘り強く取り組む力
評価規準			芸術・美術における基礎・基本的な知識・技能を身に着け、内容を理解すると共に、作品制作の中で活用することが出来る。	課題内容に応じて、自分なりのイメージや狙いを持ち、それを表現するために素材や技法をどのように活用したらより効果的かを考え、完成度を高めていくことが出来る。	自主的に粘り強く意欲的に制作に取り組む。準備・片付け・清掃を丁寧に行う。
A	立高生として目指すべき目標	レベル4	芸術・美術における基礎・基本的な知識・技能を身に着け、内容を理解すると共に、作品制作の中で活用や応用をして、より高い完成度へと繋げることが出来る。	課題内容に応じて、自分なりのイメージや狙いを持ち、それを表現するために素材や技法をどのように活用したらより効果的かを考え、完成度を高めていくことが出来る。	自主的に粘り強く意欲的に制作に取り組み、高い完成度の実現に挑戦する。準備・片付け・清掃を丁寧に行う。
B	立高生として求める標準	レベル3	芸術・美術における基礎・基本的な知識・技能を身に着け、内容を理解すると共に、作品制作の中で活用し、応用することが出来る。	課題内容に応じて、自分なりのイメージや狙いを持ち、それを表現するために素材や技法をどのように活用したらより効果的かを考え、完成度を高めていくことが出来る。	自主的に粘り強く意欲的に制作に取り組む。準備・片付け・清掃を丁寧に行う。
		レベル2	芸術・美術における基礎・基本的な知識・技能を身につけ、内容を理解し、活用することが出来る。	課題内容に応じて、自分なりのイメージや狙いを持ち、それを表現するために素材や技法をどのように活用したらより効果的かを考え、作品を完成させることが出来る。	自主的に粘り強く制作に取り組む。準備・片付け・清掃を丁寧に行う。
C	立高生として初歩的段階	レベル1	芸術・美術における基礎・基本的な知識や技能の内容を理解している。	作品制作をするにあたり、自分なりのイメージや狙いを持ち、それを表現するために素材や技法をどのように活用したらより効果的かを考えることが出来る。	粘り強く制作に取り組む。準備・片付け・清掃を丁寧に行う。
評価方法			課題及び作品 授業中の作品経過観察	課題及び作品 授業中の作品経過観察	意欲・学習態度 課題提出期日の厳守
観点別評価			レベル1～4の4段階で評価し、最終的にA,B,Cで記載	レベル1～4の4段階で評価し、最終的にA,B,Cで記載	レベル1～4の4段階で評価し、最終的にA,B,Cで記載

科目名	工芸 I		必履修	使用教材	工芸 I（日文）
学年 学級	1 年工芸選択者	単位数	2	教科 担当	池田真弓・関谷美保子

期 間	授 業 計 画	到達目標
1 学期	オリエンテーション 授業進行について	・ 計画的な授業進行と内容の理解。 ・ 完成度の高い作品制作と作品提出期限の厳守。
	1 製図 第三角法 軸測投影法 完成予想図（スケッチ） 2 <木>による生活用品の制作企画 と設計図の作成 木工、漆、螺鈿作品の制作 ○木工 ・ 部材の木取り及び切出し ・ ダボ及び組継ぎ接合による組立て（成形） ・ 木地調整（整形）	1 図法理解 ・ 正確で美しい製図の作成。①② ・ 構想を伝えるための表現の習得。①② 2 ・ 形態の美しさと用途、強度を兼ね備えたデザインを考える。② ・ 合理的で有効な材料の使い方を考える。② ・ 道具、工具類の正しく安全な使い方の理解と習得。①③ ・ 隙の無い美しい接合と成形。① ・ 金属ヤスリによる整形と紙ヤスリによる木地調整。①②
2 学期	○漆塗装、螺鈿装飾 ・ 下塗～中塗 ・ 螺鈿青具の張り付け ・ 上塗 ・ 研出し ・ 磨き 3 <土>による生活用品の制作企画と 設計図の作成 ・ 粘土による成形～整形 ▷ 乾焼 ▷ 素焼 ・ 施釉 ▷ 本焼 4 <金属>による生活用品の制作企画 ・ アイデアスケッチとデザインの考察 ・ 型紙作成	・ 伝統工芸（漆・螺鈿）を知り、技法を理解する。① ・ 素材の美しさを生かした装飾と技法の習得。①② ・ 自主的な作業の準備と後片付けの徹底。②③ ・ 螺鈿を美しく研ぎ出す。① ・ 漆面を美しく磨き上げる。① 3 ・ 実用面に耐える陶作品の用途とデザインを考える。② ・ 粘土の性質、成形方法の理解と技法の習得。①② ・ 構想した形状に整形する。① ・ 自主的な作業の準備と後片付けの徹底。③ 4 ・ 用途を備えた美しくシンプルなデザインを考える。② ・ 道具、工具類の正しく安全な使い方の理解と習得。①②
3 学期	・ けがき～切断 ・ ヤスリ ・ 磨き 5 鑑賞	・ 根気よく丁寧な作業を行う。①③ ・ 段階をふんだ傷取り作業の実践。① ・ 鏡面のように美しく磨き上げる。 5 ・ 鑑賞により他者作品の特長を観察し、評価することにより今後の自己作品や、 様々な発想に反映させる。①②③ ・ 作品制作を通して、伝統工芸への理解を深め、愛着を持ち、生活に役立てる工夫を身につける。①②③

学習のポイント（授業中や家庭学習の方法）

自身の周りなどをよく観察し、状況に応じた物創りを志ざし、計画的な作業の進行をする。
様々な素材の特徴を知り、活用・応用することにより、発想を豊かにする。
制作を通じ、伝統工芸を身近に感じることを目標とし、作品を大切に作る心を育む。
毎時、製作手順や工具使用の段取りを確認し、安全に作業できるよう万全を期する。

芸術科 工芸 の ルーブリック評価						
評価の観点			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	
立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養			知識・技能（技術力）	思考力・判断力・表現力 観察力・発想力・応用力 課題発見・解決力	粘り強く取り組む力 計画性	
評価規準			芸術、工芸における、基礎・基本的な知識及び技能・技術を系統的に身につけ内容理解をすると共に実技として活用することができる。	作品制作をするにあたり、目的に応じて自己の表現のために思考、発想、適切な判断において具現化する能力を身につけ、課題発生時に自己解決ができる。	自主的に粘り強く制作に取り組む意欲を持ち、より佳い作品創造に挑戦、実現させようとする。 準備、片づけ、清掃を積極的に行う。	
A	立高生として目指すべき目標	レベル4	芸術、工芸における、基礎・基本的な知識及び技能・技術を系統的に身につけ内容理解をすると共に実技として活用することができる。	作品制作をするにあたり、自ら収集した情報を観察し、目的に応じて思考発想し、自己の表現のために適切な判断において具現化する能力を身につけ、課題発生時に自己解決ができる。	自主的に粘り強く制作に取り組む意欲を持ち、個性豊かな創造に積極的に挑戦し、実現させようとする。 準備、片づけ、清掃を積極的に行う。	
B	立高生として求める標準	レベル3	芸術、工芸における、基礎・基本的な知識及び技能・技術を系統的に身につけ内容理解をすると共に実技として活用することができる。	作品制作をするにあたり、目的に応じて自己の表現のために思考、発想、適切な判断において具現化する能力を身につけ、課題発見発生時に自己解決ができる。	自主的に粘り強く制作に取り組む意欲を持ち、より佳い作品創造に挑戦、実現させようとする。 準備、片づけ、清掃を積極的に行う。	
		レベル2	芸術、工芸における、基礎・基本的な知識及び技能・技術を系統的に身につけ内容を理解している。	作品制作をするにあたり、目的に応じ思考、発想し、適切な判断において具現化する能力を身につけ、自己表現につなげることができる。	自主的に粘り強く制作に取り組む意欲を持ち、より佳い作品創造に挑戦しようとする。 準備、片づけ、清掃を積極的に行う。	
C	立高生として初歩的段階	レベル1	芸術、工芸における、基礎・基本的な知識及び技能・技術を理解している。	作品制作をするにあたり、目的に応じ思考、発想し、具現化するために適切な判断をすることができる。	自主的に粘り強く制作に取り組む意欲の大切さを理解し、作品創造に興味を持つ。 準備、片づけ、清掃を積極的に行う。	
評価方法			課題及び作品（完成度）授業による実技観察	課題及び作品（発想・デザイン）授業による実技観察	作品制作に対する意欲や学習態度。作品提出及び期限厳守。準備、清掃に対する姿勢。	
観点別評価			レベル1～4の4段階で評価し、最終的にA,B,Cで記載	レベル1～4の4段階で評価し、最終的にA,B,Cで記載	レベル1～4の4段階で評価し、最終的にA,B,Cで記載	